

園、インフアント・スクール・ナーセリー・スクールの教員養成の近況を見ると、アメリカでは、四年制大学で幼・小低学年教員を一括して養成する例が増加しているし、イギリスのイングリランドのフレーザー・カレッジは三年制、スコットランドのナーセリー・スクールの教員養成は、初等学校（小学校）教員養成より一年長く、四年制である。

先進国の右のような実情や幼年教育の正しい主張および幼稚園教育の義務制促進の観点から教育立国を必要とするわが国では——つぎのような教員養成制度の確立が望ましい。

(1) 幼・小低学年教員養成の確立（四年制大学）、あるいは(2)幼稚園教諭と保育の志望者を第三年まで一括して教育し、第四年に分化させ学修させる。(3) 幼児教育の大学院の設置。(4) 現職教育の拡充強化。

幼稚園教員養成は現状で充分であると、文部当局が考えているなら、それは無責任もはなはだししいし、現職教員がそう考えているなら、無自覚もはなはだししいといえる。文部省も今や教員養成制度（主として義務教育関係）の再検討を決意し、近く中央教育審議会に諮問する方針のようである。したがって本学会も、この機を逃さず、幼稚園教員養成につき充分研究して、同審議会に対して、刷新案を建議すべきではないか。

日本保育学会第十回大会記事

保育の理論的な研究の発表を願って昭和二十三年に創立された日

本保育学会も、いよいよ今年には第十回の大会を開くことになった。昭和三十二年五月二十五日（土）午後〇時三〇分より五時三〇分まで、二十六日（日）午前九時より四時四五分までの両日にわたり、日本女子大学（東京都文京区高田豊川町一八）を会場として開催された。

プログラム

第一日

開会の挨拶

第十回準備委員長

児 玉 省

研究発表（午後一時四十分—五時三十分）

（目次参照）

第二日

研究発表（午前九時—十一時四十分）

（目次参照）

（第一日および第二日の研究発表の題目および氏名は本誌目次参照）
総 会（十二時三十分—午後一時）
本年度の総会は、右第十回大会の第二部として開かれ、山下会長を議長として議事が進められ、次のことが承認あるいは決定された。

一、昭和三十一年度事業報告

常任委員 竹 田 俊 雄

二、昭和三十一年度会計決算報告

常任委員 村 山 貞 雄

三、昭和三十一年度事業計画協議

常任委員 竹 田 俊 雄

第十回大会開催、倉橋賞授与、幼児の教育（九月号）に大会発表

の報告、共同研究の実施、会報の発行、会員名簿の作成、幼稚園教員養成について中央委員会に申請、海外の学会との交流等。

四、昭和三十三年度予算案協議

常任委員 村山 貞雄

五、役員の変更

六、第十一次大会会場決定

昭和三十三年五月

広島大学において開催と決定

倉橋賞授与式(午後一時—一時十五分)

受賞者 尚綱女学院短期大学

大阪基督教短期大学

会長の挨拶

会長

本田 和子
高橋 恵子
山下 俊郎

当番校学長挨拶

共同研究発表(午後一時三十分—五十分)

我が国における幼児保育史

山下 俊郎
村山 貞雄

講演(午後一時五十分—二時三十五分)

保育十か年の歩みを顧みて

山下 俊郎

シンポジウム(午後二時四十分—四時四十分)

「保育者養成の諸問題」

(要旨は本誌参照)

閉会の挨拶

副会長 小川 正通

来会者は正会員約二五〇名(うち新入会員五〇名)準会員約四五〇名計約七〇〇名で全国各地から参集された。

松村康平委員は、本大会開催中、出席会員中幼稚園および保育所勤務の人たちに対して、保育の仕事に関連するアンケートを行い、前述の保育者養成の諸問題に関するシンポジウムの中で、その結果

の発表を行った。

また本大会では、会場校で、昨年度の大会における出席会員の要望にこたえて、研究発表要旨のプリントを準備し、出席会員中の希望者に対して一部百円をもって配付した。

本大会を開催するに当っては、会場校児玉省準備委員長をはじめ、村山貞雄委員、日本女子大学児童研究所の加藤翠・宮本美沙子・渡辺和子・桑原綱・多賀景子・小野淑子の諸氏および学生約百名が協力した。

幼児の教育 第五十六巻第九号

定価五〇円

昭和三十三年八月二十五日印刷

昭和三十三年九月 一 日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所
フレーベル館にお願いいたします。